

## 平成28年度 ステップアップスクール当仁研修会（報告）

### スクールカウンセラーから見た子育て

～思春期・不登校・特別支援教育～

- ・生徒の進路情報・生徒の発達段階と親の関わり・軽度発達障がいの理解など

主催：ステップアップスクール当仁

講師：武部 愛子 先生

講師プロフィール：福岡こども短期大学 教授

臨床心理士 福岡市スクールカウンセラー

内容：講演、質疑応答（事例アドバイス）、個別相談

日時：2016年10月29日（土）18時～

場所：福岡市立 当仁公民館 児童学習室

本年度も、福岡こども短期大学 教授で臨床心理士の 武部 愛子 先生 を講師に迎えて子育ての悩みについて講演やアドバイスを受けながら学習をしたいと思います。武部先生はその豊富な経験と分かりやすい解説で大変人気のある方です。福岡市のみならず各地での講演は「保護者の会」「人権講演」「民生委員や主任児童員研修」などで、子育てから発達障がいの理解など幅広いお話が聞けました。変化の激しい時代、従来の子どもに対する見方や接し方だけでは理解できないことが増えてきています。一人で悩まずみんなで考えていければと思っています。

参加者は18名で、中学校の教頭先生や不登校対応教員，特別支援教育支援員，など先生方も参加されて18時から当仁公民館で講演会がありました。主な内容は子どもの発達段階と親の関わり、軽度発達障がいの理解など基本的な話をさせていただいた後、質疑形式で今保護者が困っていることに対して具体的なアドバイスをしていただきました。最後に個別面談の時間では個々の悩みに対して相談に応じてもらい21時過ぎに終了しました。

### 内 容

- ・不登校の理由ははっきりしないことが多い。何か理由を述べないと大人が納得しない。しかし、実は本人もよくわからないし、まして、大人がわかるように説明する能力を持たないことが多い。
- ・「原因はない」のではなく適応がへたくそで物事を適当に流すことができない。白黒をはっきりさせないと納得できない。ぐずるか駄々をこねるか優秀だが頑固な子が多い。基

本的に発達課題(ばらつき)を持っていることも多く周囲の環境に対する適応が下手で、  
どうしていいかわからなくなって動けなくなった子ども。

- ・いきなりおこることが苦手。想定範囲外のことにに対するパニック。

- ・白黒がつかないと納得できない。・友達付き合いが苦手。・自分が納得できないと謝らない。・頑固で自分を曲げない。など

- ・以前もいたが周囲が普通に受け止めてくれて個性と認められると一緒にやっていたが、最近自分たちと異なった子を受け入れられない。

- ・衝動性ADHDの子どもは少ない。2次障害としての多動や暴力的な行動に走る場合が多い。適当な部分を認めるのが苦手。0-100なので正しいと思うことを相手に分からせたいとして押し通してしまう。本人は相手もわかってくれると思うので強く推してします。相手の気持ちは理解できていない。

- ・発達のばらつき(人は必ず何らかの発達の課題)を持っていることが多い。

- ・集団との認知のずれが大きくなると集団の適応が難しくなってくる。特に同年代での適応は難しい。発達障がいでは8割以上の人と生き方考え方が違う。学校で学習を進めていくとき平均的な考え方に合わせて進むが、発達に課題があると感性が違うので盛り上がるどころが違う。「なんでわからないの?」というのは認知のずれがあるから。

- ・「認められる・頑張ったことをほめられる」結果が出なくても応援すると自分の中から頑張る力が出てくる。

- ・障がいは病気ではない。恒久的に続くもので変わらない。しかし、生き方の工夫を学習することはできる。体験や学ぶことによって対応の仕方を学ぶことはできる。失敗経験が多く自分からチャレンジすることに二の足を踏むようになることもある。

- ・診断がつくことで大きく変わることはない。病院で治療するものでもない。しかし、対処療法として必要なときもある。

- ・自分の弱点を知ることは必要。決して欠点ではない。

- ・不登校の場合、親子関係はできていることが多い。親に「学校に行けない」と言える関係であり、それを受け入れてもらえる関係はできているから。

- ・「できていますよ」というメッセージが大切で「わかってあげること、認めてあげることが必要。決して修正しようとするのではない」。自分で次の一歩が歩めるように手助けすることが大切。批判することはプラスにならない。自分のやり方が否定されれば不安になる。結局いつも誰かの顔色を見て判断していくかもしれない。

- ・自分で判断するのではない他の判断の基準(生徒指導の先生など)に従っていると社会に出たとき判断が難しくなる。一つ一つの行動に不安を感じながら学校生活を送っている可能性もある。常に不安感を持ちストレスにさらされている。



今回は卒業生である北九州大学大学院在学の藤川さんが経験を話してくれました。

